

付きということで珍重されました。

4、口取り きんとん、伊達巻、かまぼこ。色合いも美しく、貴重な砂糖を使った甘い味が珍重された。

② 二の重 タイの塩焼き、ぶりの照り焼き、鮭の切り身焼きなど地方によって違っています。

③ 三の重 酢の物は、鯛なます、さわらなます、酢蕪、酢レンコンなど。

④ 与の重（四は不吉として与を宛てた）

八つ頭、牛蒡、人参などの煮しめや昆布巻きなど。

余談・れんこん、きんかん、きんとん、にんじん、はんぺん、なんきん、ぎんなん等は「ん」の音が付く食材は「運」が付くとされ、その「ん」が重なると更にめでたいとされていました。面白い遊び心ですね。

教の子や一男一女大切に 安住 敦

【4】元日（元旦は元日の朝の意）

年の初めの第一日で国民の祝祭日ですね。明治6年の1月1日から太陽暦を採用しました。すべてが改まる清新な気分にあみだされ、なにかしらめでたい感慨につつまれます。家庭では屠蘇を汲み雑煮を祝います。

子どもにとって何といっても待ち遠しいのはお年玉です。今年では中学生になったから、きっと去年までのお札と違うだろうとか、あのおじさんは毎年びっくりするほど弾んでくれるなど、心をときめかして皮算用をしたものです。これが大人になると、逆の算段に心をいためます。古来あったお年玉は、各地によって様々ですが、九州地方では、神詣での時に供える米を白紙に包んでひねった物をさしています。古くは餅であったが、室町時代に、男子には紙凧、太刀、馬、などが、女子には羽子板、紅箱などが贈られたといわれています。

【5】初夢

正月元日から二日にかけて夜見る夢を初夢と言います。その一年の幸福を得たいという願いが強いのでしょう。初夢の古参としては「一富士、二鷹、三なすび」が喜ばれました。

富士は日本一の高い名山。望みの高さがかなえられます。鷹は俊敏で、獲物をつかみ取ります。勇ましく勢いが良いことを願ったのでしょう。また、茄子は語呂から来る「成す」で、物事を成就させるという願いでしょう。

また、茄子の花は徒花がなくて全部実るところから、縁起がいいとされたのです。「親の意見となすびの花は、千に一つのむだ

もない」という諺も連想されます。これを見るために、宝船の絵や、凶夢を食べてくれる猿の絵を、枕の下に置いて眠る風習もあったそうです。

三人の子に初夢の三つ下り来 上野 泰

【6】初詣

元日に、氏神や恵方にあたる神社仏閣にお参りすることを言います。信仰の有無に拘わらず年頭の社殿にぬかずいた後は、気持ちのよいものです。我が家でも長女が中一、次女が小一の年から9年間お参りに行きました。きっかけは、冬休みに入ると朝6時に起きて親子で始めた長距離走です。二人とも走るのが苦手だったのを直そうとしたのです。毎日、2km走りました。その集大成に初詣を利用したのです。おせち料理を食べ、「紅白歌合戦」をみているとすぐに「ゆく年くる年」という番組になります。これが始まるとスタートしました。近くの神社まで約4kmなのですが、二人ともついてきました。ゆっくり走り、いろいろな話をしながら行きました。次女は、今でも冬休みになると自分の子どもに話しています。娘にとって、印象深い思い出になったようです。

仲見世はあとの楽しみ初詣 今井つる女

【7】七草粥

「せり、なづな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、錫白、春の七草」。早朝一家の主婦は、「七草なづな、唐土の鳥が、日本の国にわたらぬうちに」と口ずさみながら、まな板の上で七草を刻みます。家族はその音を聞きながら起床し、健康を祝って七日の膳を囲みます。平安時代、宮中では1月15日に7種類の穀物「米、麦、粟、稗、黍、胡麻、小豆、蓼（みの）、米（こめ）」で粥を作って豊穰を祈りました。それと、中国から伝わった新年に若菜を食べる習慣が結びついて七草粥となったと考えられています。この時期に青野菜を食べるのは栄養学的にも意味のあるものでした。みなさんも、この日はその土地で採れる青い葉物をいれたお粥を召し上がってみてください。

七草粥欠けたる草の何何ぞ 鷹羽狩行

お正月の行事は、いま住んでいる国ではどんな風俗習慣があるのでしょうか。日本の古来のものを書きだしてみました。民族の伝統を比較してまとめてみたいいかがでしょうか。

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA
〒145-0064 東京都大田区上池台 3-39-9
TEL : 03-5754-2240 FAX:03-5754-2241
HP : www.jolnet.com



表面的な姿だけで捉えがちな伝統行事ですが、その一つひとつの事物・内容には、伝統的な深い意味があります。ここでは、「お正月」の飾りや食事に込められた意味を、解説していただきました。

ここで紹介された「お正月」の紹介をきっかけに、アメリカのホリデーや行事の意図や意味をお子さんに問いかけてみてはいかがでしょうか？



張江 幸男（はりえ ゆきお）

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問

前全日本空輸（株）海外子女教育相談室長、元三菱商事（株）相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭